

(7 . 7 . 7)
日本銀行

当面の金融調節方針について

- (1) 経済情勢をみると、景気回復の力は引続き働いているものの、回復の動きはやや足踏み気味となっている。
- (2) 物価面では、全般的に物価低下圧力が根強い状況にある。
- (3) 金融面では、マネーサプライの伸びは緩やかなものにとどまっている。
また、債券・株式市場では、景気の先行きに対する不透明感が依然払拭されていない。
- (4) 以上のような経済情勢を踏まえ、日本銀行は、今後、物価が過度に下落した場合の経済に及ぼす影響をも念頭に置きつつ、金融面から経済活動をサポートする力をさらに強化するため、当面の金融調節に当って、短期金融市場において資金の潤沢な供給に努め、市場金利の一段の低下を促すことが適当と判断した。その際、市場金利は、平均的にみて現行公定歩合をある程度下回って推移することを想定している。
- (5) 日本銀行としては、本措置により、金利全般がさらに低下し、物価安定の下での景気の着実な回復に資することを期待している。

以 上